

国立国語研究所学術情報リポジトリ

近現代語コーパスにおける漢語「是非」

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2023-11-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東泉, 裕子, 高橋, 圭子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000133

近現代語コーパスにおける漢語「是非」

東泉 裕子 (東洋大学)

高橋 圭子 (東洋大学)

The Sino-Japanese *zehi* ‘right and wrong, by all means’ in Corpora of Modern and Present-day Japanese

Yuko Higashiizumi (Toyo University)

Keiko Takahashi (Toyo University)

要旨

現代日本語において「ゼヒ」は副詞用法が中心であるが、感動詞的用法への拡張も見られる。「ゼヒ」は歴史的に見ると「是」と「非」という漢語の文字通りの意味の名詞から副詞へと意味・用法が拡張し、近代以降に副詞用法の使用頻度が高くなったという。本研究では、書き言葉のコーパスの会話部分ならびに話し言葉のコーパスの会話を利用して、近現代語の会話における「ゼヒ」の用例を調査した。調査の結果、(i)「ニ」を伴わない「ゼヒ」の形式の副詞用法が最も頻度が高く、名詞用法はわずかであること、(ii) 副詞用法の使用比率は20世紀のほうが19世紀後半より高いこと、(iii) 現代語の会話のコーパスでは「ゼヒ」や「ゼヒゼヒ」などの形式で相手の発話への応答としても用いられ、感動詞的用法への拡張が見られることがわかった。

1. はじめに

現代日本語の「ゼヒ」には、(1)のような名詞用法、(2)・(3)のような副詞用法がある¹。また、(4)・(5)のように相手の発話への応答として用いられることもある。このような用法は感動詞的用法と言える。副詞用法および感動詞的用法の場合、(3)・(5)の「ゼヒゼヒ」のように畳語の形式も観察される。なお、(1)～(5)は「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」および「日本語日常会話コーパス(CEJC)」からの用例である²。

- (1) 「あ、いえ、なんでもないのよ。まあね、代理母そのものの是非はともかくとして、自分こそ三田村明の代理母だという女が二人も現れたんじゃあねえ、ご本人の三田村氏も、妻の利香さんもそりゃびっくりするわよねえ」
BCCW, LBf9_00174, 35680, 1991年
- (2) 「ゼヒ、あの仔犬がほしいですね。」 BCCW, LBc9_00163, 12950, 1988年
- (3) IC04_広瀬 そうですね
IC02_義母 うん
IC04_広瀬 ゼヒゼヒそんな時はねうーんゆっくりしてください
CEJC, T001_009, 41750, 2016年

¹ 以下、本文中では「是非」「ゼヒ」などの複数の表記の総称として「ゼヒ」を用いる。

² コーパス検索アプリケーション『中納言』で検索した用例には、順に、コーパス略称、サンプルID/資料ID/会話ID、開始位置、出版年/収録年などを記す。なお、CEJCの発話境界を示す区切りはスペースに置き換える。以下、用例の下線は稿者らによる。

- (4) IC01_佐竹 あ そうらしいね でもねあたしボルドーのスカートユニクロで買ったけど まだ試してないの
 IC06_弓絵 え
 IC01_佐竹 あ
 IC06_弓絵 ぜひ
 IC05_咲乃 ぜひ
 IC06_弓絵 だって
 IC01_佐竹 じゃあしたその格好で行こうかな
 CEJC, T011_007, 1760/1780, 2016 年
- (5) IC02_牧島 フィリピン行ってみるかな ポピュラーポテンシャル
 IC01_根本 ぜひぜひ
 IC02_牧島 いい機会
 CEJC, T018_017, 2550, 2017 年

以上のような「ぜひ」の多様な用法とそこに至る歴史的過程を明らかにするために、本研究ではぜひの用法を、各種コーパスに基づき調査する。先行研究によれば、副詞用法は名詞用法から生じ、近代以降に使用頻度が高くなるという。そこで、本研究では近現代語の「ぜひ」の用法を調査することにした。

2. 先行研究

2.1 漢語「是非」の語史

漢語「ぜひ」の通時的変遷については、玉村(1991, 1993, 2018)の詳しい研究がある。玉村の一連の研究によれば、中古までは「ぜひ」は「是」と「非」という文字通りの意味の名詞用法が中心であったが、副詞用法「ぜひ(ニ)」は中世前期から、「ぜひトモ(ニ)」は中世後期から見られるようになる³。近世になると、「ぜひ(ニ)」「ぜひトモ(ニ)」は意志・希望や依頼・懇願などの表現の使用が増加し、豊語的な「ぜひ(ニ)」も見られる⁴。また、「ぜひ(ニ)」「ぜひトモ(ニ)」ともに時代が下るにつれて、「ニ」を伴わない形式が多く見られるようになるという。そして、玉村(1993: 67)では、(6)のような豊語的な例について、「感動詞に一步近づいているのかもしれない」と述べている。

- (6) 「真野さん、なにか話を聞かせてよ。面白い話がない？」
 (中略)
 「怪談でございます。小菅さん、だいじょうぶ？」
 「ぜひ、ぜひ」
 『道化の花』1935年 (玉村 1993: 67)

³ 「ぜひ」の副詞用法は日本で発生したものであり、中国語には見られない (玉村 1993, 方 2009)。韓国語においても「是非」は個々の漢字の原義のままであるという (Seongha Rhee 氏(マヒドン大学・韓国外語大学)による)。なお、「ぜひ」の副詞用法の成立には、「ぜひニツケテ」(玉村 1991, 1993)、「ぜひナク」(方 2009) という慣用句的な副詞句が関与することが指摘されている。

⁴ 豊語的な「ぜひ(ニ)」には、例えば、次のような用例がある。

- (i) 「是非是非シヤリムリニ求ルナリ」(『学談雑論』1716頃)(玉村 2018: 68)
 (ii) 「是非に[踊り字]に是非なくも下地は好也御意はよし」(『仮名手本忠臣蔵』1748年初演)(玉村 2018: 68)

2.2 現代語における「ゼヒ」の用法

現代語における(2)のような副詞「ゼヒ」は、グループ・ジャマシイ(2023)によれば、(7)のような意味・用法をもつ⁵。

- (7) a. 「どうしても・かならず」という意味。
 b. 依頼の表現「てください」、希望の表現「てほしい」などと共に使い、強い願望を表す。ふつう否定の希望表現と共に使わない。単に意志の表現を強めるためには「かならず」などを使う。
 c. 人間のかかわることにしか使えない。 (グループ・ジャマシイ 2023: 143)

また、山岡他(2018)は、(8)のような例を挙げ、副詞「ゼヒ」は「相手の要求を受諾することが自分にとって負担ではなく、むしろ利益であるとして、相手の心理的負担を軽減しようとする配慮」(山岡他2018: 175)を示す配慮表現としても使用されると述べている。(8a)は相手の許可要求に対する受諾、(8b)は相手の勧誘に対する受諾である。同様の指摘は、森本(1994: 167-168)、福島(2002)にもある。

- (8) a. A 「来週のテニスの親善大会に、私も参加させていただいてよろしいでしょうか。」
 B 「ええ、(○ぜひ/△φ)参加してください。」
 b. A 「来週のテニスの親善大会があるんですが、B さんもいかがですか。」
 B 「いいですね。(○ぜひ/△φ)参加させてください。」

(山岡他 2018: 175)

(4)・(5)のような相手の発話への応答として用いられる「ゼヒ」の感動詞的用法については、先行研究において詳しい記述や調査はなされていないようである。ただし、森本(1994: 167-168)は受諾の用法として(9)を挙げている。(9)は相手 P の発話への応答として用いられており、感動詞的用法と言える⁶。

- (9) P: うちへ遊びにいらっしやいませんか。
 Q: ええ、ぜひ。 (森本 1994: 167)

(3)・(5)のような畳語の形式「ゼヒゼヒ」については、「ゼヒ」とは別に立項する辞書もある(『日本国語大辞典 第二版』、『大辞林 第四版』、『デジタル大辞泉』、グループ・ジャマシイ(2023)など)。

⁵ 森田(1977: 259)、飛田・浅田(2018: 216)などにも同様の説明がある。

⁶ (4)・(5)・(6)・(9)のような「ゼヒ」は、「相手の発話に応じ、何らかの反応を返す表現」(柏野 2019: 368, 2020: 331)である。柏野(2019, 2020)はこのような表現を「応答表現」と呼んでいる。そして、「うん」「はい」「ああ」などの狭義の感動詞だけでなく、「ですよ」「だろうね」などの文末表現に由来するものや、「いいね」「さすが」「すごい」「なるほど」「確かに」「了解」「もちろん」「だいじょぶ」「だめ」なども「応答表現」とする。また、鈴木(2016)は「反応表現」という語を用いている。

3. 調査データ

現代語の「ゼヒ」の多様な用法のうち、感動詞的用法は話者間の相互行為の中に見られる。そこで、本研究では、話し言葉のコーパスは独話以外の会話・対話を、書き言葉のコーパスは会話部分を、調査の対象とした。表1は今回の調査に用いたコーパスを「調査対象期間」の古いものから順に並べたものである。現代日本語研究会(編)(2016)(以下、「現日研(2016)」)を除き、いずれのコーパスも国立国語研究所コーパス開発センターによるものである。

国立国語研究所コーパス開発センターによるコーパスは、『青空文庫パッケージ(AO)』以外は、コーパス検索アプリケーション『中納言』を用いて検索した。短単位モードを使い、キーに語彙素読み「ゼヒ」と語彙素「是非」を指定して検索した。各コーパスについては、以下のような手順で分析対象を決めた。

『日本語歴史コーパス(CHJ)』については、「時代名」は「明治」「大正」を選択して検索を行い、「本文種別」が「会話」で「話者」に情報が入っている用例のみを抽出した。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』は、「話者名」に情報が入っている用例のみを抽出した。結果として「図書館・書籍」のデータの会話部分に使用されている「ゼヒ」の用例を分析対象とすることになった。

『昭和話し言葉コーパス(SSC)』は「会話」、『日本語話し言葉コーパス(CSJ)』は「対話」から用例を抽出した。CSJからは「ゼヒ」の用例が8件得られたが、話者交代の位置が不明であるため、今回は分析対象とはしないことにする。SSCの「会話」、『現日研・職場談話コーパス(CWPC)』、『日本語日常会話コーパス(CEJC)』、『名大会話コーパス(NUCC)』については話者交代の位置を確認することができるので、分析対象とした。

以上のような手順により得られた用例は目視で確認し、前後の文脈が不明のものは除去した。検索は、2023年7月から8月に行った。

『青空文庫パッケージ(AO)』については、全文検索システム『ひまわり』ver.1.7.2を利用した。文字列検索で「是非」「ぜひ」をそれぞれ検索し、ランダムに並べ替え、会話部分に現れる「ゼヒ」の用例を集めるために、前後の文脈にカギ括弧のあるもののみを120例ずつ抽出した。

現日研(2016)のデータはエクセルで読み込み、エクセルの検索の機能を使って「ぜひ」を検索し、8例を得た。「是非」は皆無であった。

表1 調査対象コーパスと本研究での分析対象用例数

コーパス名(略称)	調査対象期間	データバージョン	中納言バージョン	分析対象用例数
日本語歴史コーパス(CHJ)	1871-1947	2023.03	2.7.2	385
『青空文庫』パッケージ(AO)	1926-1962	2023-04-06	—	240
現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)	1976-2007	2021.03	2.7.1	234

昭和話し言葉コーパス(SSC)「会話」 (丸山他 2022)	1952-1969	2022.03	2.7.2	14
現日研・職場談話コーパス(CWPC) (現日研 2011)	1993	2018.03	2.7.2	6
日本語話し言葉コーパス(CSJ) 「対話」	1999-2001	2019.01	2.7.2	
名大会話コーパス(NUCC) (藤村他 2011)	2001-2002	2020.10	2.7.2	40
現代日本語研究会(編) (2016) (現日研 (2016))	2011-2014			8
日本語日常会話コーパス(CEJC) (小磯他 2020)	2016-2018	2023.03	2.7.2	89

4. 調査結果

4.1 近現代語の書き言葉のコーパスの会話における「ゼヒ」

表2は本研究で調査対象とした近現代語の書き言葉のコーパスの会話における「ゼヒ」の用例数と使用比率をまとめたものである。CHJは便宜的に19世紀と20世紀とに二分した。

表2 近現代語の書き言葉のコーパスの会話における「ゼヒ」

用法	形式	CHJ		AO	BCCWJ
		1871-1896	1901-1947	1926-1962	1986-2005
感動詞的	ゼヒ(トモ/ニモ)		1 0.4%	2 0.8%	7 3.0%
		ゼヒ ⁷	39 35.8%	216 78.3%	149 62.1%
副詞	ゼヒニ	4 3.7%	6 2.2%	5 2.1%	1 0.4%
	ゼヒニモ			2 0.8%	1 0.4%
	ゼヒトモ ⁸	14 12.8%	35 12.7%	38 15.8%	44 19.2%
	ゼヒトモニ	1 0.9%			
	ゼヒゼヒ	3 2.8%	1 0.4%	1 0.4	1 0.4%

⁷ CHJ(1871-1896)の副詞用法「ゼヒ」全39例は「ぜつび」1例を含む。

⁸ 畳語のような「ゼヒトモ」の用例がAOとBCCWJにあるが、1例と数えた。

(i) 「是非とも、是非ともそうしなくてははいけません」(AO, 山本周五郎『新潮記』1943年)

(ii) 「おお ぜひとも ぜひとも ぜひとも ぜひとも 『庵』へ おいで なせえ」(BCCWJ, Lbk9_00045, 20440, 1996年)

	ゼヒ(ニ)+引用 ⁹	2 1.8%	2 0.7%	6 2.5%	9 3.8%
副詞(計)		63 57.8%	260 94.2%	201 83.8%	219 93.6%
名詞	ゼヒ+助詞	9 8.3%	5 1.8%	5 2.1%	3 1.3%
	ゼヒ+無助詞				1 0.4%
	ゼヒ(ガ/モ)ナイ	25 22.9%	8 2.9%	30 12.5%	4 1.7%
	ゼヒニ及バズ	10 9.2%	2 0.7%		
	その他	2 1.8%		2 1.6%	
名詞(計)		46 42.2%	15 5.4%	37 15.4%	8 3.4%
合計		109	276	240	234

表 2 から、20 世紀以降は「ゼヒ」という形式による副詞用法が中心であることが確認できる。「ゼヒ」という形式による副詞用法の使用比率は、CHJ (1871–1896)は 35.8 %であるのに対し、CHJ (1901–1947)は 78.3%、AO は 62.1%、BCCWJ は 69.7%である。一方、19 世紀、すなわち CHJ (1871–1896) には、名詞用法も 42.2%と少なくないが、その多くは「ゼヒ(ガ/モ)ナイ」・「ゼヒニ及バズ」といった定型表現である(46 例中 35 例、76.1%)。

「ゼヒゼヒ」という畳語の形式の副詞用法は、CHJ (1871–1896)に 3 例、CHJ (1901–1947)に 1 例、AO に 1 例、BCCWJ に 1 例見出された。(10)は本調査における畳語の形式の副詞用法の初出例である。

- (10) 駐春亭で頭取であひとの一座だから金がたりないでひよつとはちをかくといけな
いからぜひぜひたのむ とつかひをよこされたけれど

CHJ, 60C 口語 1871_02203, 20430, 1871 年

さらに、玉村(2018: 72)の指摘のとおり、「ゼヒ(ニ)」と「ゼヒトモ(ニ)」については、今回の分析対象からも「ニ」を伴わない形式のほうが「ニ」を伴う形式よりも使用比率が高いことがわかる。各コーパスにおいて、「ゼヒ」は 35.8%~78.3%であるのに対し、「ゼヒニ」は 0.4%~3.7%である。また、「ゼヒトモ」は 12.7%~19.2%であるのに対し、「ゼヒトモニ」は CHJ (1871–1896)に 1 例(0.9%)しか見出せなかった。

感動詞的用法は、少数かつ使用比率が低いが、CHJ (1901–1947)に 1 例(0.4%)、AO に 2 例(0.8%)、BCCWJ に 7 例(3.0%)見出された。(11a)は「ゼヒトモ」、(11b)は「ゼヒニモ」、(11c)は「ゼヒ」の感動詞的用法である。表 2 の数値は、暫定的に、(11a)のような「そりゃあ」や

⁹ 玉村(2018: 68)によれば、「さきには是非と仰られけれ共、夫の心うかがはしくてふりきり立かへりし」(『一休咄』1688 年)などのように、「ゼヒ」に続くべき述語が省略され、引用の助詞「と」が下接する例が中世後期から見られるようになり、近代以降に多用されるという。そこで、表 2・表 3 では「ゼヒ(ニ)ト」「ゼヒ(ニ)ッテ」などの用例を暫定的に「ゼヒ(ニ)+引用」に分類した。

(11c)のような「どうぞ」などが前後に現れている場合も感動詞的用法として数えたものである。(11a)の「ゼヒトモ」、(11c)の「ゼヒ」は本調査における感動詞的用法の初出例である。

- (11) a. 『(略) つまり、恐らく貴方はマルトノマー號に冷蔵庫の設備がお要りでせうがな?』『そりやあ、是非とも。』『さう思つてましたよ、あの娘を連れて戻るのに冷蔵庫が要るだらうとね。(略)』 CHJ, 60M 太陽 1925_05048, 25730, 1925 年
- b. 「いずれ、大坂へも来いよ」秀吉は、まるで彼を、旧友あつかいにし、それ以上、かれの恥じ入るのをみながらなかった。「ゼヒにも」と、成政は、礼をのべて、やっと退出した。 AO, 吉川英治『新書太閤記』11, 1939 年~1945 年
- c. 「ええ、しよっちゅう、貴女のことを云って、会いたがっていますよ。それに、路子も、たいへん貴女に、すまながっています。今度、何か機会を作りますから、子供をご覧になりませんか。」 「ゼヒ、どうぞ。」 AO, 菊池寛『貞操問答』, 1934 年

4.2 現代語の話し言葉のコーパスの会話における「ゼヒ」

表3は本研究で調査対象とした現代語の話し言葉のコーパスの会話における「ゼヒ」の用例数とその使用比率である。

表3 現代語の話し言葉のコーパスの会話における「ゼヒ」

用法	形式	SSC	CWPC	NUCC	現日研 (2016)	CEJC
		1952-1969	1993	2001-2002	2011-2014	2016-2019
感動詞的	ゼヒ(ゼヒ)			2 5.0%	1 12.5%	22 24.7%
副詞	ゼヒ	14 100.0%	6 100.0%	31 77.5%	7 87.5%	54 60.7%
	ゼヒトモ			2 5.0%		2 2.2%
	ゼヒゼヒ			2 5.0%		7 7.9%
	ゼヒ+引用			2 5.0%		4 4.5%
副詞(計)		14 100.0%	6 100.0%	37 92.5%	7 87.5%	67 75.3%
名詞	ゼヒ+助詞			1 2.5%		
合計		14	6	40	8	89

表3から、現代語の話し言葉のコーパスの会話では、ほとんどが「ゼヒ」という形式で副詞として使用されていることがわかる。名詞用法は1例のみであった。また、「ニ」を伴う形式の「ゼヒニ」と「ゼヒトモニ」の用例は皆無であり、会話においては「ゼヒ」と「ゼヒトモ」が定着していることがうかがえる。(12)は「ゼヒ」、(13)は「ゼヒトモ」の例である。

- (12) C160 まああの今後ともですね
 C159 ええ
 C160 こういうことがございましたらぜひ一つのナンバーを確認されてですね
 C159 ええ
 C160 あのお知らせを願いたいと思ひまして SCC, C57_02_BT, 25630, 1957年
- (13) F048 あーっ、ぜひとも見にいきたい。
 F021 あー、見にいきたーい。 NUCC, data006, 37490, 2001年

畳語の形式は、副詞用法と感動詞的用法に見られた。(3)のような「ゼヒゼヒ」の副詞用法については、NUCCに2例、CEJCに7例見出された。(14a)は副詞用法の「ゼヒゼヒ」、(14b)は副詞用法の「ゼヒゼヒ」に終助詞「ネ」が付加された用例である。感動詞的用法の用例については、次節で示す。

- (14) a. F032 あ、それでワシントンにもう1つね (略) ミSSIONナリーの先生がいて、もうぜひぜひ遊びにこいって言ってくれて、(略) NUCC, data009, 207730, 2001年
- b. IC01_檜田 そう
 N10A_広岡 じゃあぜひぜひね あの前にゆうてた計画通りしていただきたいですからね 僕にしてみたら
 IC01_檜田 だからホン CEJC, K010_004b, 30640, 2018年

4.3 現代語の話言葉のコーパスの会話における「ゼヒ」の感動詞的用法

表3に見られるとおり、現代語の話言葉のコーパスの会話には「ゼヒ」の感動詞的用法が合計25例見出された。(4)のような「ゼヒ」の感動詞的用法の用例を(15)に挙げる。

- (15) a. IC02_奈津子 ね 空空の日ができんじゃないとか言って
 IC01_萌 いいね
 IC02_奈津子 うん 海と山があれば空も
 IC01_萌 そうだよ 空も
 IC02_奈津子 ぜひ
 IC01_萌 来年再来年ぐらい CEJC, K001_011, 18890, 2016年
- b. IC02_高畑 ンでもほらあのね皆さんに配れるものだったらいいかなって
 IC01_小川 うんうん うん はい
 IC02_高畑 お願いします
 IC01_小川 はい
 IC02_高畑 はい
 IC01_小川 ぜひ

IC02_高畑 はい CEJC, T015_010, 33290, 2017年

- c. F064 F141 も来ない? 絶対おもしろいよー。 発表見物だよ。
(略)
F141 ふーん あ、あたしも、でも見たいかも。
F064 ぜひ
F141 うん。 おもしろいね。(略) NUCC, data123, 141270, 2001年

(5)のような畳語の形式の「ぜひぜひ」の感動詞的用法は、NUCCに1例、CEJCに7例あった。さらに、「ぜひぜひぜひ」と3回繰り返すものもCEJCに2例あった。(16a)は「ぜひぜひ」、(16b)は「ぜひぜひぜひ」の用例である。

- (16) a. F130 あー 見たかったわ。
F109 うん、今度ね。
F130 うん、ぜひぜひ。
F109 うん。それは結構。 NUCC, data112, 30840, 2002年
- b. IC03_堀江 これ修理修理させてくれないかなってちょっと思っ
IC02_園部 あ ぜひぜひぜひ
IC01_健 あー ネットのね あの堀江さんに仕事を提供してあげてくだ
さい CEJC, S001_018, 92830, 2017年

5. まとめと考察

ここまでの調査結果から、近現代語の「ぜひ」について次のようなことがわかった。

- (i) 20世紀以降は「ニ」を伴わない「ぜひ」による副詞用法が中心であり、(1)のような名詞用法の使用はごくわずかである。
- (ii) 副詞用法の使用比率は20世紀のほうが19世紀後半より高い。
- (iii) 現代語の会話のコーパスでは、「ぜひ」や「ぜひぜひ」などが相手の発話への応答としても用いられており、感動詞的用法への拡張が見られる。

ここで、漢語名詞の副詞化の観点から若干の考察を加えたい。漢語は基本的に名詞として日本語に受容された後に、元の語とは異なる意味・用法をもつようになるものがある(前田1983、趙2013、鳴海2014、2015など)。「ぜひ」についても、名詞から副詞へと意味・用法が拡張し、20世紀以降には「ぜひ」の形式の副詞用法が大半を占めるようになった。そして、現代語の会話では、相手の発話に対する応答としても使用されるようになっている。つまり、副詞用法から感動詞的用法へという意味・用法の拡張が見られる。

「ぜひ」の他にも現代語では感動詞的用法が観察される漢語がある。例えば、「勿論」(高橋・東泉2020)、「無理」(高橋・東泉2021)、「了解」(高橋他2018)などは、それぞれの複雑な過程をたどりつつ、名詞から副詞へ、そして感動詞的用法へという拡張が見られる。

また、「ぜひぜひ」などの畳語の感動詞的用法の類例として、「あるある」「いるいる」(鈴木2016、Ono and Suzuki 2018)、「無理無理」(高橋・東泉2021)、「すごいすごい」「いいいい

い」(Suzuki 2023)などが挙げられる。こうした畳語は、強調や感情の共有などがあると考えられる。

6 おわりに

本研究では、近現代語の書き言葉のコーパスの会話部分と話し言葉のコーパスの会話を用いて、近現代語の会話における「ゼヒ」の用例を調査した。そして、20世紀以降は「ニ」を伴わない「ゼヒ」の形式の副詞用法が中心であること、現代語の会話のコーパスでは「ゼヒ」や「ゼヒゼヒ」などの形式で相手の発話への応答としても用いられ、感動詞的用法への拡張が見られることがわかった。「ゼヒ」と同じように、名詞用法から副詞用法へ、さらに感動詞的用法へという拡張が見られる漢語は少なくないが、拡張の時期やプロセスは一樣ではない。このような漢語の調査は今後の課題としたい。

謝 辞

LRW2023において有益なコメントをお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(C)「漢字文化圏における漢語の語用論的標識化」(研究代表：高橋圭子、課題番号: 20K00650)、同「漢字文化圏における漢語の語用論的標識の発達」(研究代表：東泉裕子、課題番号: 23K00560)の研究成果の一部です。

文 献

- 柏野和佳子(2019)『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる応答表現」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ 2019 発表論文集』pp. 368–380.
<https://doi.org/10.15084/00002589> (2023年8月1日確認)
- 柏野和佳子(2020)『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる感動詞以外の応答表現」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ 2020 発表論文集』pp. 331–347.
<https://doi.org/10.15084/00003173> (2023年8月1日確認)
- 現代日本語研究会(編)(2011)『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』ひつじ書房
- 現代日本語研究会(編)(2016)『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香(2023)『日本語日常会話コーパス』設計と特徴」『国立国語研究所論集』24, pp. 153–168. 国立国語研究所. <http://doi.org/10.15084/00003692> (2023年8月1日確認)
- 鈴木亮子(2016)「会話における動詞由来の反応表現—「ある」と「いる」を中心に—」井出祥子・藤井洋子(監修)藤井洋子・高梨博子(編)『コミュニケーションのダイナミズム』pp. 63–83. ひつじ書房
- 高橋圭子・東泉裕子(2020)「語用論的標識としての『勿論』の歴史」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』22号, pp. 197–208. 東洋大学人間科学総合研究所.
<https://doi.org/10.34428/00012023> (2023年8月1日確認)
- 高橋圭子・東泉裕子(2021)「語用論的標識としての漢語『無理』の歴史」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』23号, pp. 53–74. 東洋大学人間科学総合研究所.
<https://doi.org/10.34428/00012355> (2023年8月1日確認)
- 高橋圭子・東泉裕子・佐藤万里(2018)『「了解」は使わないように』『了解です!』『言語資源活用ワークショップ 2018 発表論文集』pp. 57–67. 国立国語研究所.
<https://doi.org/10.15084/00001638> (2023年8月1日確認)
- 玉村禎郎(1991)『是非』の語史：副詞用法の発生まで』『語文』56, pp. 20–38. 大阪大学国語国文学会. <https://hdl.handle.net/11094/68827> (2023年8月1日確認)

- 玉村禎郎(1993)『『是非』』『日本語学』12(7), pp. 66–72. 明治書院.
- 玉村禎郎(2018)「近世における「是非(に／とも／ともに)―副詞用法を中心に―」近代語学会編『近代語研究』第20集, pp. 61–74. 武蔵野書院.
- 趙英姫(2013)「近現代の漢語副詞の成立」野村雅昭(編)『現代日本漢語の探究』pp. 214–233. 東京堂出版
- 鳴海伸一(2014)「漢語形容動詞・副詞の品詞性と用法変化：通時的観点からみた近現代の特徴」『国立国語研究所共同研究報告 13–03 近現代日本語における新語・新用法の研究』pp. 56–75. 国立国語研究所. <http://doi.org/10.15084/00002748> (2023年8月1日確認)
- 鳴海伸一(2015)『日本語における漢語の変容の研究：副詞化を中心として』ひつじ書房
- 方香蘭(2009)「漢語副詞『是非』の成立について」広島女学院大学大学院言語文化研究科編『広島女学院大学大学院言語文化論叢』12号, pp. 102–79 (119–142).
- 福島泰正(2002)「『ぜひ』の機能と使用条件について―聞き手に何かさせることを意図した場合―」『日本語教育』113号, pp 24–33.
- 藤村逸子・大曾美枝子・大島デイヴィッド義和(2011)「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏(編)『言語研究の技法：データの収集と分析』pp. 43–71. ひつじ書房
- 前田富祺(1983)「漢語副詞の変遷」国語語彙史研究会(編)『国語語彙史の研究 四』pp. 189–231. 和泉書院
- 丸山岳彦・小磯花絵・西川賢哉(2022)「『昭和話し言葉コーパス』の設計と構築」『国立国語研究所論集』22号, pp. 197–221. 国立国語研究所. <http://doi.org/10.15084/00003522> (2023年8月1日確認)
- 森本順子(1994)『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版
- 山岡政紀・牧野功・小野正樹(2018)『新版 日本語語用論入門―コミュニケーション理論から見た日本語―』明治書院
- Ono, Tsuyoshi and Ryoko Suzuki (2018) “The use of frequent verbs as reactive tokens in Japanese every day talk: Formulaicity, florescence, and grammaticization”, *Journal of Pragmatics* 123, pp. 209–219.
- Suzuki, Ryoko (2023) “Repeated adjectives as (a)typical clauses in Japanese conversation”, Panel: Pragmatics of the ‘(a)typical clause’ across languages, Organized by Ritva Laury and Tsuyoshi Ono. 第18回国際語用論会議. 2023年7月11日.

辞書・辞典

- グループ・ジャマシイ(編)(2023)『日本語文型辞典 改訂版』くろしお出版
- 飛田良文・浅田秀子(2018)『現代副詞用法辞典 新装版』東京堂出版
- 松村明(編)(2019)『大辞林 第四版』三省堂
- 森田良行(1977)『基礎日本語1』角川書店

関連 URL

- コーパス検索アプリケーション『中納言』 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- 国立国語研究所言語資源開発センター <https://clrd.ninjal.ac.jp>
- コトバンク『デジタル大辞泉』 <https://kotobank.jp>
- ジャパンナレッジ Lib『日本国語大辞典 第二版』 <https://japanknowledge.com/library/>
- 全文検索システム『ひまわり』 <https://csd.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?himawari>